



かかみがはら

市議会だより

発行
各務原市議会

岐阜県各務原市那加桜町1-69
電話058-383-2001

編集
市議会だより編集委員会



晴れやかな笑顔で集う新成人（1月12日・市民会館）

12月定例会

主な議案説明	2	市政を問う 一般質問	
審議結果	3	JR 那加駅にトイレを	7
委員会審査	4	公共施設耐震化	8
委員会調査報告	5	国際化社会への対応	9
市政を問う 会派の代表質問		安心して産み育てられる街に	10
市長の政治姿勢	6	友好・姉妹都市との交流	11
非婚のひとり親家庭への支援	6	市民の声、議会素描	12

平成25年度一般会計補正予算

総額405億3169万8千円へ

障がい児日中一時支援、住宅リフォーム補助

平成25年第4回定例会(12月定例会)を11月26日から12月18日までの23日間の会期で開催しました。

市長から提出された議案は、平成25年度一般会計補正予算をはじめとする25案件で、委員会、本会議を経て、いずれも原案のとおり可決しました。

- 第4回定例会に市長から提出された議案は、
 - ・予算の補正 6件
 - ・条例の制定・改正 9件
 - ・指定管理者の指定 9件
 - ・市道路線の認定・廃止 1件
- の合計25案件です。
- 主な議案内容は、次のとおりです。

平成25年度一般会計補正予算(第4号)

地方税法が改正されることなどに伴う住民税システム

- め、障がい児日中一時支援事業、生活保護事業、防衛省調整交付金事業など、当面の行政需要に対応するため、歳入歳出予算を補正するものです。
- 歳入の主なもの
 - 国庫支出金 1億744万9千円
 - 県支出金 1934万6千円
 - 繰入金 減額1億8002万6千円
 - 歳出の主なもの
 - 職員給与費等

職員数が減ったことや、共済組合負担率の確定などに伴い、給料、職員手

当、共済費を補正するものです。

- ふるさと納税啓発事業 減額3億6633万1千円
- ふるさと納税の寄附者に対する記念品の充実と納税手続きの簡素化に伴い、市外在住の寄附者が大幅に増加したことから、記念品代やクレジット決済手数料などに係る所要額を増額補正するものです。
- 住民税システム等改修事業

障害者総合支援法の改正に伴う自立支援システムの改修や税法改正など

に伴う住民税システムの改修を実施するため、所要額を補正するものです。

1698万9千円

- 高齢者住宅改善助成事業 在宅の要介護高齢者の世帯に対し、住宅のバリアフリー化などに要する資金を助成するもので、申請者が当初見込みより増加したことに対応するものです。
- 209万2千円

○障がい児日中一時支援事業

新規事業所の参入により、利用者が当初見込みより増加したことに対応するものです。

3325万7千円

○生活保護事業

生活保護受給者が増えたことに伴い、生活保護扶助費の所要額を増額補正するものです。

1億762万1千円

○住宅リフォーム補助事業

住宅リフォームの申請件数が当初見込みより増加したことに対応するものです。

1555万円

その他の議案

○総合計画策定条例

市の最上位計画としての総合計画を策定するために必要な事項を定め、計画的な市政運営をするためにこの条例を定めるものです。

○市民の歯と口腔の健康づくり推進条例

市民の歯と口腔の健康づくり推進の基本理念を定め、市の責務などを明らかにし、施策の基本的な事項を定めることにより、市民の生涯を通じた健康の保持と増進を目的として定めるものです。



歯科検診(総合福祉会館)

審議結果(12月定例会)

○平成25年度一般会計補正予算(第4号)……………	原案可決・賛成多数
○平成25年度後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第2号)……………	原案可決・全会一致
○平成25年度下水道事業特別会計補正予算(第1号)……………	原案可決・全会一致
○平成25年度水道事業会計補正予算(第1号)……………	原案可決・全会一致
○総合計画策定条例……………	原案可決・全会一致
○市税条例の一部を改正する条例……………	原案可決・賛成多数
○集会場設置条例の一部を改正する条例……………	原案可決・全会一致
○消防長及び消防署長の任命資格を定める条例……………	原案可決・全会一致
○職員の給与に関する条例の一部を改正する条例……………	原案可決・賛成多数
○市民の歯と口腔の健康づくり推進条例……………	原案可決・全会一致
○市営住宅条例の一部を改正する条例……………	原案可決・全会一致
○下水道条例の一部を改正する条例……………	原案可決・賛成多数
○水道事業給水条例の一部を改正する条例……………	原案可決・賛成多数
○公の施設の指定管理者の指定(那加福祉センターほか13施設)……………	原案可決・賛成多数
○公の施設の指定管理者の指定(福祉の里)……………	原案可決・賛成多数
○公の施設の指定管理者の指定(高齢者生きがいセンター稲田園)……………	原案可決・賛成多数
○公の施設の指定管理者の指定(高齢者生きがいセンター川島園)……………	原案可決・賛成多数
○公の施設の指定管理者の指定(商工振興センターほか3施設)……………	原案可決・賛成多数
○公の施設の指定管理者の指定(勤労者野外活動施設いこいの広場 伊木の森)……………	原案可決・賛成多数
○公の施設の指定管理者の指定(総合体育館ほか20施設)……………	原案可決・賛成多数
○公の施設の指定管理者の指定(指定文化財皆楽座)……………	原案可決・賛成多数
○公の施設の指定管理者の指定(リバーサイド21)……………	原案可決・賛成多数
○市道路線の廃止及び認定(市道鶉311号線ほか3路線)……………	原案可決・全会一致
○平成25年度一般会計補正予算(第5号)……………	原案可決・全会一致
○平成25年度介護保険事業特別会計補正予算(第2号)……………	原案可決・全会一致
○介護保険制度における新たな地域支援事業の導入に係る意見書……………	原案可決・賛成多数
○企業減税等から確実な賃金引き上げを求める意見書……………	原案可決・賛成多数
○消費税の軽減税率制度の導入を求める意見書……………	原案可決・賛成多数



総合計画の体系図

総合計画策定条例
 ▼質疑 従来は、総合計画のうち基本構想のみが議決の対象であったが、今回は基本計画も議決の対象とする理由は。
 ▼答 総合計画は市のまちづくりの方向性を決める最上位の計画である。中期的な計画である基本計画を含め、市民の代表である議会と一緒に策定していくべきだと判断したためである。

委員会審査



総務常任委員会

経済教育常任委員会

今期定例会に提出された各案件を詳しく審査するため、12月12日と13日の2日間で4つの常任委員会を開催し、審査を行いました。各常任委員会での主な質疑内容は次のとおりです。

公の施設の指定管理者の指定(伊木の森)

▼質疑 伊木の森の指定管理期間を2年間にした理由は。
 ▼答 伊木の森は、リニューアルの構想があり、内容が大きく変わる可能性があるため、整備終了後に改めて指定管理をするためである。

平成25年度一般会計補正予算(第4号)

▼質疑 県立の自然の家が廃止されたことにより、少年自然の家の利用者はどれくらい増えたか。
 ▼答 県立の4つの少年自然の家が閉所となった平成22年4月以降、主に東濃地区の学校の利用が増え、市外からの利用者

が30%程度増えている。
 ▼質疑 住宅リフォーム補助金の執行状況は。
 ▼答 11月末現在で、申請件数384件、補助金額は2696万4千円となっている。



いこいの広場伊木の森(鵜沼字伊木山)

建設水道常任委員会

下水道条例の一部改正

▼質疑 消費税率の変更に伴う経過措置は。
 ▼答 検針期間の2カ月のうち、4月1日より前に使用したと想定される日がある場合はその間はすべて5%で計算する。

公の施設の指定管理者の指定(リバーサイド21)

▼質疑 リバーサイド21の施設管理業務の内容は。
 ▼答 パターゴルフ場の受付、ルールやマナー説明などの接客、施設の清掃、巡回警備、芝生の管理などである。



ルール説明をする職員(リバーサイド21)

民生消防常任委員会

公の施設の指定管理者の指定(所管分)

▼質疑 施設振興公社が福祉センターなどの施設の指定管理者となっているが、過去に管理に対する苦情や問題はあったか。
 ▼答 過去5年間、特に大きな苦情は受けていない。

指定管理者の選定項目と基準は。

▼答 主な評価項目は、利用者に対するサービスの向上、施設の適切な維持管理、経費の縮減、管理運営体制、指定管理料の額などであり、100点満点で評価する。

**委員会調査報告
(他市への視察)**

議会運営委員会

〈期間〉11月6日～7日

○山口県周南市

市議会による行政評価について視察した。

決算審査と並行して、各常任委員会が抽出したいくつかの事業の行政評価を行っている。

決算の審査では、決算全体に対し賛成か反対かの結論となるが、行政評価では個別の事業に踏み込んで評価をすることが可能である。

また、その評価は、賛成・反対の二択ではなく、「拡充」「現状維持」「縮小」「廃止」の4段階評価となっている。

評価の結果は、委員会の決議という形で市長に提言され、市長は3月末までに回答をしなければならぬ。

行政評価の決議に法的な効力はないが、議会が



議会運営委員会視察 (周南市)

判断を下した結果であるので、かなりの重みを持ったものであるといえる。そのほか、予算決算委員会での審査方法について視察した。

○山口県下関市

平成24年3月に市議会のあり方などを定める議会基本条例を制定しており、制定過程や制定後の活動について視察した。

条例に基づく取り組みの一つとして、委員会が積極的な調査研究を行うことを目的に、委員会ごとに、年度当初に取り組むべき課題(活動方針)を定めることとしている。

また、市民と議員が情報や意見を交換する「市民と議会のつどい」を毎年開催しており、委員会の活動方針に基づいた取り組み状況などを報告している。

議会改革の取り組みは、自治体によりさまざまであり、本市議会においても、これら2市の取り組みを参考にしていきたい。

市議会だより編集委員会

〈期間〉11月14日～15日

○福岡県福津市

議会専門紙の中で、議会だよりを編集のプロにチェックしてもらおうコーナーに応募していた福津市を視察した。

福津市では3年前から市議会だよりの改革を行い、現在、試行錯誤を重ねている。

編集委員は、今年は全員1期目の議員であり、普段からこうしたらいいと思っていたところを見直し、随時変えている。

例えば、読みやすくするために余白を紙面の20%程度にするほか、市民

の活動の写真を多く取り入れている。

また、議会の日程が決まると議会だよりの臨時号を発行し、議会の日程や質問者などを掲載している。

この視察を通して、読む人の立場に立った分かりやすい紙面構成や、編集時の工夫の仕方について理解を深めることができた。

議会だよりの発行だけでなく、議会広報全般を担う姿は大変参考になった。

○大分市

「おおいた市議会だより」は、中核市議会議長会主催の議会報コンクールで最優秀賞を受賞し、平成23年から3年連続で優秀賞以上の賞を受賞している。

大分市議会は、広報特別委員会を設置して各会派から均等に1名ずつ委員を選任している。

また、広報特別委員には議会運営委員会の委員長と副委員長が選任され

るため、議会内の調整しやすい体制となっている。表紙の写真には、議会の活動をより広く市民に知ってもらうために、議員による広報活動の様子を掲載している。

大分市では、広報特別委員会だけでなく、議会全体で市議会をPRしようという意気込みを強く感じた。

本市でも、編集委員会の位置付けや議会をPRする活動への役割などを検討することは、市民に分かりやすく開かれた市議会とするための有益な手段の一つであると感じた。



市議会だより編集委員会視察 (大分市)



市長の政治姿勢
新年度予算編成と徳育の実施は
 和政
 クラ

▼問 市長就任から7カ月の感想と今の心境は。

▼答 職責の重さを感じながらも、楽しみながらさまざまな事案と向かい合っている。
 将来の本市を担う子どもたちが確かな夢を持てるまちにしていくことが私の使命の一つであると改めて実感した。

▼問 市長に就任して初めての本格的な予算編成となるが、意気込みは。

▼答 「笑顔があふれる、みんなが幸せになるまちをつくりたい」という市長を志した原点の思いを、変わらぬ情熱を持って市民・職員と共に実現していく。

▼問 別枠で設定された平成26年度予算「新しい各務原要求枠」に対する予算要求の状況は。

▼答 各部署からは、1億円の枠に対し、約3億6千万円、91件のアイデア

アが提出された。

今後、精査していくが、職員の熱意を感じている。

▼問 江戸時代初期の陽明学者である中江藤樹の徳育に学ぶ教育をしては。

▼答 生きる力の育成は、「姑息の愛」に頼らない子どもたちの姿といえる。生きる力を身に付けた子どもたちを育成するために、学校の教育活動全体を通じて心を磨く教育を行っていく。

▼問 教育現場における徳育の実施状況は。

▼答 徳育にかかわる領域は道徳である。本市では、自己を見つめる力と他を思いやる心を育てることを重点に、学校の全教育活動を行っている。

非婚のひとり親家庭への支援
保育料など新年度から措置
 会党
 議明
 市公

▼問 平成26年度当初予算の概要は。

▼答 現時点の当初予算規模は431億6900万円を見込んでおり、平成25年度当初予算より約10億円の増加となる見込みである。

▼問 普通建設事業費では、小中学校冷暖房施設整備事業や勤労青少年運動場再整備事業の工事開始をはじめ、学校施設耐震化事業、犬山東町線バイパス整備事業などを見込んでいる。

▼問 高齢者肺炎球菌ワクチン接種率の向上のために個別通知を行っては。

▼答 予防接種の有効性や助成事業実施に関する周知を図るため、直ちに特別養護老人ホームなどの施設入所者に対し、施設を通じて案内をする。

また、平成26年度から、節目の年齢の方にも個別通知を実施していく。

▼問 非婚のひとり親家庭への支援の考えは。

▼答 新年度より、婚姻歴のない非婚のひとり親家庭に対しても寡婦控除があるとみなして保育料を算定していく。

▼問 生活困窮者自立支援法への取り組みは。

▼答 必須事業のうち自立相談支援事業は業務委託を行い、住居確保給付金の支給については、市直営で実施する。

▼問 生活困窮家庭の子どもへの学習支援は。

▼答 県の動向を踏まえ、教育委員会と健康福祉部などが連携をして検討していく。

市政を問う 一般質問

12月9日、10日の2日間で一般質問を行いました。質問をした議員は次のとおりです。(発言順)

水野盛俊、池戸一成、津田忠孝、吉岡健、波多野こうめ、杉山元則、大竹大輔、仙石浅善、三和田紀、三丸文也、川嶋一生、坂澤博光、岩田紀正、黒田昌弘、永治明子、五十川玲子

JR那加駅にトイレを

設置を前向きに検討

▼問 駅利用者や地元から強い要望があるJR那加駅へのトイレ設置に向けたこれまでの取り組みは。

▼答 これまでトイレの設置は鉄道事業者の責務



トイレの設置が待たれるJR那加駅

と考え、岐阜県鉄道問題研究会など、さまざまな団体を通してJR東海に要望してきた。

また、市独自の設置についても、那加駅敷地内での設置を前提に複数の案を検討してきたが、線路に挟まれている特殊な場所であるため、多くの課題がある。

▼問 那加駅の敷地内ではなく駅周辺の便利な場所に設置しては。

▼答 駅利用者以外の方も利用できるように、那加駅敷地内にこだわらず、周辺の公共性が高い場所へのトイレ設置を前向きに検討していく。

まちづくり ミーティング

▼問 市長と市民が意見交換を行うまちづくりミーティングの参加者から主な意見は。

▼答 子育ての意見をはじめ少子高齢化、商店街や地域の活性化、一般道



まちづくりミーティングの様子

路の補修など、非常に幅広い意見があった。

▼問 市民からの意見をどう生かし、予算に反映させるのか。

▼答 貴重な意見や提案は、今後の計画に組み入れるかを調査、検討するなど、市政に反映するよう担当部局に指示している。

平成26年度の予算編成の中で、特別枠を設け、できる限り予算に反映していく。

副市長の 複数体制

▼問 副市長複数体制を導入することにより考えられる効果は。

▼答 多様化する行政課題への対応や調整が市長、副市長に集中している。

副市長複数体制を導入することにより、スピード感ある市政運営や、横断的な総合調整機能が向上していくと考える。

他市の事例を参考に、

本市でもトップマネジメント体制を一層強化することが必要だと判断し、複数体制を採用することを前提に、人材の発掘や行政運営システムの検証と再構築、導入時期の検討を進めていく。

▼問 地域コミュニティー向上への取り組み状況は。

▼答 地域コミュニティーの礎を担う自治会活動の活性化のために、補助金の充実や自治会要望窓口の一元化などに取り組んでいる。

▼問 エリア担当職員を配置する考えは。

▼答 エリア担当職員制度は、職員が地域と行政のパイプ役となるもので、本市に適した制度導入に向けて検討していく。

▼問 新規事業に対する事業シート作成の取り組み状況は。

▼答 平成26年度からの新規事業は、事業の目的や予測される効果などを事業の開始段階から明確にするために事業シートを作成している。

公共施設耐震化

鵜沼市民サービスセンターを建て替えへ

▼問 公共施設耐震化の状況は。

▼答 災害時に避難所になる施設を優先的に耐震化している。

要援護者の避難所になる福祉センターの改修はすべて完了しており、一次避難所になる小中学校は、平成26年度末までにすべて完了予定である。その他の施設についても順次、補強か建て替えを行っている。



老朽化した鵜沼市民サービスセンター

▼問 鵜沼市民サービスセンターを更新する考えは。

▼答 建築後43年が経過し、施設、設備ともに老朽化が著しいため、建て替える予定である。多くのの方に利用される東の行政拠点にふさわしい施設となるよう、施設の位置・規模・機能や運営形態について検討していく。

災害対策本部

▼問 災害時の対策本部長である市長が不在の時や事故があったときの対応策は。

▼答 地域防災計画では市長が不在の時や事故があった場合は、副市長が代行することとしている。同時に不在の場合でも、

在席する上位の職員が本部長代理となつて対応することとしている。

これまでも、両者が同時に不在にならないように配慮しているが、今後は、「同時に不在とならないよう努める」旨を地域防災計画に記載し、迅速で適正な判断ができる体制を明確にする。

▼問 災害対策本部での情報の連絡体制は。

▼答 電話などの利用が制約される状況下では、地域防災無線が主な通信手段だが、復旧に合わせてファックスやメールなども活用していく。

円滑な運用ができるように、緊急メールを使用した職員の連絡訓練のほか、毎月28日に地域防災無線の通信確認を行っている。

ふるさと納税

▼問 平成24年度のふるさと納税の寄附状況は。

▼答 平成24年度の収入は79万円であったが、他の自治体への寄附による税控除の減収分は、約1332万円であった。

▼問 平成25年度に記念品を充実し、寄附手続きを簡単にした成果は。

▼答 新制度開始の6月3日から11月末までに、2911件、4328万3千円と予想をはるかに超える寄附があった。

資源ごみの持ち去り防止

▼問 10月1日より資源ごみの持ち去りを防止する条例改正をしたが、市の周知活動や指導は。

▼答 市広報紙やウェブサイトで条例改正の内容を伝え、持ち去り行為者の人相や車両番号などの情報提供をお願いした。

6月からは職員がごみステーションの早朝パトロールをしており、持ち去り行為者には直接指導してきた。



4力国語で書かれた警告看板（那加琴が丘町）

また、8月からは分別ごみの収集日に中国語、ポルトガル語を含む4カ国語で書かれた警告看板を各ステーションに設置して注意している。

▼問 庁舎の省エネ対策の現状は。

▼答 市役所本庁舎と産業文化センターの一部のフロアで、平成24年度に200本ほどLED蛍光灯に切り替えている。

また、省エネ安定器を採用したHf蛍光灯を市役所本庁舎1階ロビーなどの数カ所で使用しており、今後も省エネタイプに順次切り替えていく。

国際化社会への対応

新たな海外都市との交流を前向きに検討

▼問 国際化社会への対応を促進するために、新たな海外都市と交流する考えは。

▽答 米国ユタ州カナブ市、カリフォルニア州セリトス市へ、毎年30人の中学生を派遣している。

また、セリトス市から高校生交流団を毎年受け入れ、交流を続けている。本市の特性をさらに発展させ、お互いにアイデアを出し合い、活力を生み出すことができる新たな



セリトス市議会を見学する中学生

な海外都市との交流を、議会の意見を聞きながら前向きに検討する。

▼問 今までの都市交流の成果は。

▽答 平成元年に友好都市の盟約を結んだ敦賀市とは、産業農業祭での産業界交流をはじめ、スポーツ交流や文化交流を市民レベルで行っている。

犬山市とは「木曾川と夢と浪漫」まちづくり盟約」を締結しており、本市との連携による美しい街並み形成や観光振興に努めており、年々観光客が増えている。

▼問 職員の人事交流の成果は。

▽答 平成11年度から岐阜県と、平成13年度から総務省と、平成18年度から中部経済産業局と相互交流を実施中である。

また、平成17年度から中部地方整備局から派遣

を受け入れ、平成21年度から県へ税務事務職員の派遣を行っている。国・県の最新情報の収集、広域的な視野を持つ職員を養成できている。

アレルギー対応給食

▼問 食物アレルギーの対応が必要な保育園児数の推移は。

▽答 アレルギー反応の強さはさまざまだが、平成23年度は75人、24年度は80人、25年度は94人と増加傾向である。

▼問 保育園児への食物アレルギーの対応は。

▽答 入所前にすべての保護者に説明した後、対応が必要な場合、申請書と医師の食事意見書を提出してもらい、保護者と園長、担任が相談し対応を決めている。

毎月食材を詳細に記載した献立表を保護者に確認してもらい、別の鍋を使って調理し、色を変えた

食器を使うなどアレルギー食材が混ざらないように区別をしている。

▼問 小中学校のアレルギー対応食の実施状況は。

▽答 医師の診断と保護者からの申請に基づき、文部科学省が示すガイドラインに沿って、食物アレルギーへの学校給食対応を実施している。

その一つとして、単独調理校では除去食を提供している。

給食調理施設の状況や食物アレルギーへの児童生徒の実態を総合的に判断し、最良の方法で給食を提供していく。



楽しく給食を食べる園児（更木保育園）

小学校の英語教育

▼問 小学校の英語教育の現状と今後の取り組みは。

▽答 市内統一の指導計画の整備とそれに基づいた実践、KET（英語指導助手）による訪問指導を通して小学校英語活動の充実に努めてきた。

英語を使う機会を増やし、英語学習への意欲を向上させるため、KETの増員を検討していく。

▼問 冒険塾から防災へ意識した体験型防災塾へ変えては。

▽答 本市でも南海トラフの地震による被害が懸念されている。

災害が起きた時に児童生徒が地域で活動していくことが期待される。

これまで、冒険塾でも災害時を意識した活動をしてきたが、今後さらに防災を意識した活動を検討していく。

安心して産み育てられる街に

一般不妊治療の人工授精に助成

▼問 公的な助成がない一般不妊治療に市が助成していく考えは。

▼答 多くの方が利用している一般不妊治療のうち、人工授精に対する助成を新年度に向けて検討していく。

▼問 母体の負担を軽減する産後ケアの考えは。

▼答 母親は、出産による大きな身体的負担に加え、夜中の授乳による生リズムの乱れで強いストレスにさらされる。産後の専門医による健康診査や母乳育児相談は、出産後の身体回復の確認や母乳育児の悩みを解決する貴重な機会となる。

産後1カ月健診や母乳育児相談の助成を新年度実施に向けて検討する。
▼問 「こんにちは赤ちゃん訪問」の現状は。

▼答 地域に住む先輩ママが、生後4カ月までの

乳児がいる家庭をすべて訪問し、子ども館や家庭児童相談室の情報を提供して利用を促している。

平成24年度は993世帯を訪問しており、会えなかった家庭には、乳幼児健康診査で情報提供している。

家庭児童相談室は訪問事業がきっかけとなり育児相談が増え、保護者の育児負担の軽減につながっている。



こんにちは赤ちゃん訪問の様子

ヤング健診の実施

▼問 職場などで健康診断を受ける機会が無い若い方を対象に、ヤング健診を実施する考えは。

▼答 来年度から18歳から39歳までの若い世代にも健診を受ける機会を設けたいと考えている。

実施期間は、毎年6月から翌年の2月までとし、健診内容は特定健康診査に準じ、診察、身体計測、血液検査、尿検査、血圧測定、心電図とする。

また、オプションとして大腸がん検査も実施する予定である。

▼問 期待する効果は。

▼答 早期に生活習慣病を予防する効果が期待できる。

▼問 健康寿命を延ばすという観点から、特定健診の重要性をどう考えているか。

▼答 特定健診の対象者は、40歳から74歳までの

国民健康保険に加入している方である。

自分の健康状態を知り、生活習慣病を早期発見し治療することが目的である。

また、健康を維持・向上させるだけでなく、医療費抑制につながるため、大切な事業と考えている。

安心ネットワーク

▼問 一人暮らしの高齢者の安否確認の方法は。

▼答 市では現在、65歳以上の一人暮らし高齢者などを対象に、夕食を手渡しで配布することにより安否を確認する「食の自立支援事業」を実施している。

また、疾病や障がいなどがある方を対象に、ボタンを押せばすぐに消防本部に連絡が入る「緊急通報システム事業」を実施している。

▼問 平成25年度から事

業化された安心ネットワークの進捗状況は。

▼答 「かかみがはら安心ねっとわーく」事業は、民間事業者と地域住民と市が連携し、孤立死防止や安否確認、行方不明者の早期発見を行うための情報共有を図るネットワークである。

12月初めに、各務原市金融協会に事業内容を説明し、協定書締結を実施する。

今後も順次呼び掛けを行い、できる限り多くの事業所と連携し、地域での見守りの輪を広げていく。



安心ねっとわーく協定書締結式(平成25年12月)

敦賀市議会と交流

〈期間〉10月23日～24日

友好都市である福井県敦賀市議会と親善交流会を開催した。

平成元年に敦賀市と本市が「友好都市盟約」を締結したのを機に、両市議会においても議員交流を開始し、現在に至っている。

今回で15回目を迎え、本市から23人の議員が敦賀市を訪問した。

親善交流会では、敦賀市の観光振興についての



観光振興についての講演(敦賀市)

講演を聴講した。

港町らしい施設を生かした空間や市の玄関口である駅周辺の整備をはじめ、市民の誇りである気比神宮周辺の整備、地元住民と連携した町並み景観を創出しながら、これらの集客拠点をつなぐ観光のまちづくりを目指すものであった。

その他に、敦賀市の観光資源・歴史・自然を体験する遊敦熟(ゆうとんじゅく)について、現地視察を行いながら交流を深めた。

韓国春川市議会と交流

〈期間〉11月11日～14日

平成16年に締結した議員交流協約に基づき、韓国春川市議会議員団(5人)が本市議会を来訪された。

今回の交流は、本市の地勢、歴史文化、まちづくりについての研修や意見交換会、そして市内施設の視察を行いながら両



視察風景(航空宇宙科学博物館)

市議会の交流を深めるものである。

両市議会議員の意見交換会では、基地所在自治体としての市民からの反応やその対応に関する質問をはじめ、選挙制度の違いや政党が市議会に与する事情、さらには議会運営に関する事項についての意見交換が活発に行われ、お互いの理解を深めた。

また、航空宇宙科学博物館や中山道鶴沼宿、河川環境楽園など、本市の産業観光施設や歴史文化遺産について市内視察などを行った。

他市からの視察受け入れ状況(平成25年)

全国の地方公共団体の議員が、本市の特色ある施策について視察調査に來られました。

- ◎ 埼玉県狭山市
- ◎ 基地対策
- ◎ 静岡県長泉町
- ◎ 市営斎場「瞑想の森」
- ◎ 埼玉県松伏町
- ◎ 音楽の街かかみがはら
- ◎ 鹿児島県南さつま市
- ◎ 障がい者スマイルプラン
- ◎ 石川県加賀市
- ◎ 基地周辺市としての防音対策
- ◎ 防衛省の補助金及び交付金の活用状況
- ◎ 埼玉県川口市
- ◎ 市営斎場「瞑想の森」
- ◎ 神奈川県座間市
- ◎ 基地対策
- ◎ 埼玉県久喜市
- ◎ 中山道鶴沼宿再生事業
- ◎ 神奈川県綾瀬市
- ◎ 基地対策
- ◎ 愛媛県四国中央市
- ◎ 議会運営
- ◎ 東京都瑞穂町
- ◎ 水と緑の回廊計画
- ◎ 宮崎県新富町
- ◎ 基地対策
- ◎ 東埼玉資源環境組合
- ◎ 北清掃センターの運営
- ◎ 千葉県富里市
- ◎ シビルミニマム
- ◎ 千葉県松戸市
- ◎ 都市公園の街づくり
- ◎ 東京都小金井市
- ◎ 木曾川アカデミー
- ◎ 栃木県下野市
- ◎ 地域ブランド「各務原キムチ」
- ◎ 北海道和寒町
- ◎ 川島会館の管理運営



本市議会での視察受け入れの様子

市民の声

こんな街がいいな!

～わたしたちの夢、願い～

挨拶がこだまする街



尾崎北町 久保田 一広さん

私は中学生のときに本市に移り住んできてもう38年になり、6年前は、尾崎小学校のPTA会長を務めさせていただきました。

休日に道端を歩いていると、小学生とすれ違うことがよくあります。

先日、小学4年生くらいの男の子とすれ違いました。

道を挟んで反対同士でしたが、ふと目が合った男の子は「こんにちは」と元気に声を掛けてくれました。

私も「こんにちは」と、さらに大きな声で挨拶をしました。

(倍返しだ!)

見知らぬ子どもと大人が挨拶できる街…いろいろな捉え方がありますが、そんな街が素敵です。

自然と共存する街



蘇原新栄町 濱野 彩楓さん

夜景がきれいだという大阪のホテルに宿泊する機会がありました。

確かに夜景はきれいでしたが、山や木々の自然を見ることはできず「この街には住めないな」と感じました。

小学生の頃に登った、権現山でのすがすがしい空気。

今もなお、忘れることはできません。

いちょう通りの並木や、学びの森の芝生。

きれいに整備された道路や施設と、自然が上手く共存しており、本市の財産だと思います。

これからも、街の整備は進んでいくと思いますが、今ある自然を大切にしてほしいです。

残したい凜とした街



三井町 多和田 美子さん

緑豊かで水が豊富な我が街。そんな自然に抱かれて育った子は、どの子も温和で人懐っこい。

そんな本市が嬉しい。

先日訪れたある街で感動の光景に出会いました。

目抜き通りに、はためく日の丸の列。

何と誇らしく美しい景色でしょう。

近年、我が街も公園や街中の通りが整備されました。

そんな街並みに白地に赤い日の丸がずらりと並んだら、より一層美しいだろうな。

そんなすがすがしい光景は、本市の子ども等の心に「我が街は美しい街、凜とした街」としていつまでも残る大切な遺産では。

市議会を見にきませんか?

平成26年3月定例会の日程(予定)

2月24日	本会議 開会
3月10日・11日	本会議(質疑・代表質問・一般質問)
3月13日～18日	常任委員会
3月24日	本会議 閉会

- ※日程は議事の都合により変更になる場合があります。
- ※ウェブサイトで本会議の生中継や過去の録画映像をご覧いただくことができます。

▼市長からのこれまでとは違う前向きな表現の答弁に、新しい各務原の始まりを予感。新年度では何が実現するか期待も膨らむ。

▼緊張をほぐそうと質問席で水を飲んでみたりしたが、その効き目はあつたかな…。

▼「お・も・て・な・し」ではないけれど、身振り手振りで心を込めて賛成討論。議場の反応は?

▼18人の議員が質問へ。議会だよりの限られた紙

議会素描



面に頭を抱える。

▼12月議会が閉会し、議員になって早一年。これから市政に市民の声を届けていきたい。

▼今期定例会も多くの皆さんに傍聴していただきましたが、時折、携帯電話の音が響きました。傍聴席では、携帯電話の取り扱いにはご配慮をお願いします。

市議会だより編集委員会

- 委員長 池戸 一成
- 委員長 瀬川 利生
- 委員 五十川 玲子
- 委員 津田 忠孝
- 委員 水野 盛俊
- 委員 坂澤 博光



環境保護のため植物インキを使用しています。